

2024年5月5日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「小さなものをつまづかせるな」

聖書：マルコによる福音書9：42～50

42節、「これらの小さな者の一人をつまづかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい」と厳しいイエスの言葉がある。この言葉は36節の「一人の子供の手を取って彼らの真ん中に立たせ、抱き上げて」と、弟子たちに語ったその一連の言葉の中に位置づけられ、つまりイエスは一人の子どもを抱いたまま、「この小さな者の一人を躓かせる者は…」と語っている。イエスは一人の子どもを抱き上げ、「子どもを躓かせ、傷つけ、悲しませる者は、地獄に落ちる。もしこの子どもを虐げ、叩き、足蹴にし、またこの子どもをにらみつけ、蔑みのまなざしを注ぐなら、そんな手や足や目は捨ててしまえ」と、イエスは子どもを抱きながら、そう弟子たちに、そして社会に語られたのではないか。

この子どもは、戦争や貧しさの中で親を失った孤児であったであろう。子どもは、その時代、その社会の矛盾のしわ寄せを一番強く受ける者であったりする。今年、学童疎開船「対馬丸」の悲劇から80年になる。「雪も富士山も見ることができる」というわさがあり、修学旅行気分です船に乗り込んだ子どもも多かった。あまりにも多くの夢、希望、未来が暗い海にのみ込まれてしまった。沖縄戦は子どもたちの多くの犠牲によって始まった。ただその状況は過去のことではなく、今も止まないミャンマー、ウクライナ、パレスチナ・ガザ等での戦争・紛争で多くの子どもたちの犠牲がある。イエスは今なお「この小さな者の一人を躓かせる者は」と語っておられる。

49節、「人は皆、火で塩味を付けられる」と記されているが、それは何を意味するのか？ ここを私たちへのメッセージとして聞いて行く時、「人は皆」とは弟子たちを表し、またキリスト者である私たちをも含むであろう。その者たちは、「火で塩味を付けられる」という訳だが。この「火」とは、いけにえ、犠牲の供え物、キリストの十字架のことを指す。それは、十字架なしのイエスはあり得ない訳で、弟子たちも十字架を担うことのない弟子はなく、私たちキリスト者も十字架を担わないキリスト者は、塩に塩気のないものであるということになる。

「これらの小さな者の一人をつまづかせる者は」との流れで見ると、社会の狭間の中で命が粗末にされ差別されているこれらの小さな者に目を注ぎ、その社会の問題を担って行くと言うことであり、そのことは「自分自身の内に塩を持」と言うことであるのではないか。

私たちは、イエスの歩みに押し出されて人との「平和」へと向かう歩みがなされることを願い、そう導かれる者でありたい。戦争のない世界を子どものためにつくり上げていくことは大人の責務である。（神谷）